

手芸工作活動の指導方法研究

エコ工作活動における指導方法の実践的研究について

内山 則子

The study of teaching and corching by the eco-craft

Eco-craft is used usuarily things make the craft

Noriko UCHIYAMA

研究概要

授業で、どのように指導・支援することが重要かを考えた時、「言葉かけによる指導案」を作成することを考えた。言葉の持つ力と言葉の持つ無力感を子どもとのやり取りで展開していくことを考えた。どのように作成するかレシピを作成した。学生が考える「タイトル」「呼びかけ文」「作り方」「遊び方」（集団での遊び方）「作った時の感想」「原理」「対象（主体）」について考える項目を一枚の用紙に書いてもらった。しかし、それをどう伝えるかがポイントとなり話し言葉の「言葉かけによる指導案」を作成した。

キーワード：クラフト・エコ・集団遊び・指導・支援

研究動機

昔、竹トンボをつくった。青竹を切ってはすぐに作った。学校での工作も切り出しナイフを使って作成した。

最近ではとりたての肉厚の青竹も手に入らなくなり、竹トンボはおもちゃ屋で買うという時代になった。もっと簡単に出来て、竹トンボの原理を知ることができるものとは考えていた。絵はがきの古いものとは違っておいても仕方がない。しかし、硬さはしっかりとしているのでプロペラになると考えた。軸は何にするのかと考えた時に、円柱のもので、加工しやすい安価なものとは考えて、ストローを思いついた。ストロートンボの完成である。

また、牛乳パックは紙質も良くこれも何かに

使えると考えて、笛をつくることを考えた。

日常の生活用品を再利用する形で、何かできないかと考えてエコクラフトという名称で、子どもの玩具をつくることにした。

作っている中で、気がついたことがあった。

それはハサミをうまく使えないことである。折り紙もきちんと折らずにやたらと筋を付けてしまうことなど色々課題があることに気がついた。

どう指導するとよいのかを考えるようになった。ここに研究紀要として「言葉かけによる」指導案、実践的指導内容を考察することにした。

研究内容

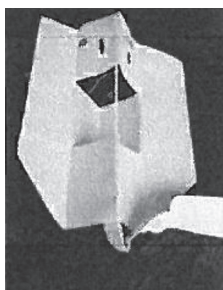
ストロートンボ・ストロー紙凧・ストロー笛
(ブーブー)・牛乳パック笛(ピーピー)・紙コップ
笛(ホーホー)の5種をどう指導・支援する
のかを考えた。

1. それぞれの遊び道具の形

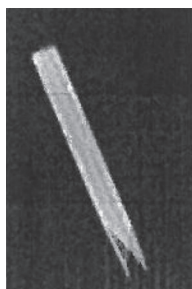
①ストロートンボ



②ストロー紙凧



③ストロー笛 (ブーブー)



④牛乳パック笛 (ピーピー)



両脇を親指と人差し
指で押さえてホール
をつくる。

⑤紙コップ笛(ホーホー)



1. 牛乳パック笛

牛乳パック笛で将来子どもの指導に当たる駒
沢女子短期大学・目白大学の学生諸氏にどう呼
びかけるのか尋ねた。

良いイメージは良い行動を生むと考えてレ
ポートしてもらった。

1. 呼びかけ文

○牛乳パックは鳴るか ○牛乳パックで笛を作
れ!? ○牛乳パックが楽器に?! みんなで笛
を作って吹いてみよう ○紙から音は生まれる
の? ○牛乳パックが大変身!! 世界に一つだ
けのMY笛を作ろう!! ○教室中を森の音楽
隊にしちゃおう ○身近なもので音づくり。音
を作ろう ○大きい音でよびかけの出来る笛を
作ろう ○牛乳パックはゴミとして捨てる? いや
笛にする ○誰が一番にならせるかな
○ピーとなる笛を作ろう 1枚で作る時2枚で
作る時 ○あら不思議牛乳パックから音がで
るよ!? つくってみよう 紙の笛 ○これから
みんなで笛を作ってみよう。笛はどんな形を
して、どんなもので作られているかな。今日
は牛乳パックを使って笛を作ってみよう。 ○
どうやって作れば牛乳パックで音が出るの
かな? そもそもどうして音が出るのかな? いろいろ
考えながら作ってみよう ○スペシャルな笛
などが挙った。

ここに示された呼びかけ文は①素材を示す
(牛乳パック・身近なもの・ゴミになる) ②音
を示す(ピーピー) ③つくり方(1枚・2枚・
どうやってつくるの・いろんな種類・紙の笛)
④誰がつくる(みんながつくる・誰が一番に)
⑤精神(根気よく・レツリサイクル) ⑥目的
(音を出して演奏会・呼びかけのため・音楽隊)
⑦原理(どうして音が出るのかな・いろんな
種類・何で鳴る) ⑧キャッチ(スペシャルな笛・
パックカット笛ゲット・オリジナル笛・マイ笛・
あら不思議)と区分できる。8つの要素が組み
込まれている。どこを中心に置くかでキャッチ
コピーが決まる。

2. レシピを作成

牛乳パック笛

笛にはいろいろな種類がある。笛はどうして
音が出るのか考えながら作ってみよう。

今日作る笛は、ピーピーとなる牛乳パックで

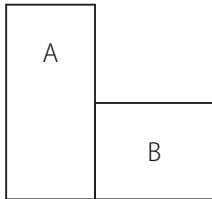
作る。できたらみんなで音を出してみよう。

3. 作り方

1) 材料 牛乳パック はさみ 鉛筆 (○型鉛筆)

2) 手順

①牛乳パックをL字に切る。(右図のAの幅よりBの幅が大きいとよい)



②L字の片方を、鉛筆を使って丸める (丸め終わった後、反対側に折っておく)

③丸めなかった方を点線から折る (折った時、Bが少し余るので、もう一度Aを包むように折る)

④丸めた部分を両脇から指で押さえて、ホルルの角度を調節して完成。(指の間から空気が逃げないように)

4. 留意点

- L字に切る時は、絶対に直角にすること
- 小さい方が鳴らしやすい
- ハサミを使う時の安全指導
- 指でおさえる時、隙間ができていないか常時チェック
- 丸みは鉛筆等に巻き付け、綺麗な丸みをつけること
- 指で押さえている部分の角度をいろいろ変えながら吹くこと
- 酸欠にならないように休みを入れてふく
- 丸めた部分と吹き口の出口とはくっつけずに少し離す

5. 遊び方

○笛の吹き方で暗号遊びをする ピッ・ピッ
ピッ・ピッピー・ピー (訳: 今日暇 暇です

ごめん今日無理 残念)

○自己紹介をしよう クイズに答えてみよう

○どれだけ長く吹けるか 大きな音合戦

○行進をする。

○どっちが高い音出せるか リズムゲーム

○いろいろな大きさの作品をつくって、音の違いを楽しむ

○どっちが長く音が出るかな・曲に合わせてピッピー・吹きながら会話できるかな

○どちらが先にふけるか勝負・笛で自分の誕生日を伝える・何の曲を吹いているか当てる

○誰が上手にきれいな音でふけるかな・自分の名前を言ってみよう

○みんなで音の高さ・大きさを変えて鳥がお話しをしているみたいに愉快的な鳥の歌を作ろう

○ドレミの音階の笛を作り、一人一音を担当して曲を演奏する

○笛の勝った数で足し算・リズム伝言ゲーム

○いろいろな長さの紙でつくってみよう。音の高さが変わるよ

○質問にイエスは1回、ノーは2回吹いてコミュニケーションを図る

6. 感想

○作り方を友人から聞き、挑戦したが、先生のような高い鋭い音色は出なかったが、笛が牛乳パックでつくれることは発見できた。小学生と一緒にやる場合は、クラス全員が成功するように教師は準備が必要になると思う。なので、先生の今回の教え方を参考にしつつ自分なりによりよい方法を見つけたいと思った。

○空気を通すことを考えながら作ることが重要であると感じた。どんな音が出るのだろう。早く音を出してみたいと児童の意欲をかきたてるような題材だと思った。この笛を使っの遊びは何個も考えられそうなので、クラスのみんなでいろんな遊びを考えて試してみるとよいと思う。

○友たちに教えてもらった後に自分で作って吹

いてみると突然大きな音が鳴った。音が鳴ると思っていなくてすごく息をたくさん吹いたので大きな音が出たのかなと思いました。小さい笛ができたので音の高さはとても高かった。大きい笛を作れば音は低くなるのかなと気になった。音が鳴るまで時間がかかり、酸欠になりそうだったけど、鳴ると感動だった。

○最初は全く吹けなかった。酸欠にもなり頭がフラフラしてきて、諦めかけたが周りが鳴らし始めて、悔しさがこみ上げてきた。技術は盗むものとある様になっている友だちのアドバイスを求めた。結果綺麗な音が鳴り、あきらめられないことが大切であると実感した。私たちでもこんなに苦戦したのだから、いかに分かりやすく児童に説明するかが最大の課題であると感じた。来週もあきらめずに頑張りたい。

○最初は、牛乳パックなどで笛が作れないと思っていたけど、あきらめずに挑戦し続けたら音が鳴ってよかったです。先生のような高い音は出なかったけどかすかにでも音が鳴ってよかったです。実際に小学生に作らせると難しいと思うけれど発想力がとても豊かになり、とてもよい頭の運動になると思いました。また同時に笛の原理まで学べるので、理科の勉強にもなりとてもよいと思いました。音が出た時に喜びは大きく感動さえ覚えるものなので、よい経験になると思いました。また、児童に今回は牛乳パックだけ自分のオリジナルの材料で作らせても様々なアイデアが出てきて発想力の育成によい勉強になると思いました。また、私は自分なりに他者との差異を出したかったのでペンなどで色をつけるという作業も加えました。そうすることによって、自分だけの笛ができて、愛着もわくと思いました。これからの授業がとても楽しみです。

○3回ぐらい鳴ったが、それっきりだった。何度もトライしたため若干の酸欠と牛乳パックのしめり気を感じた。友たちからコツを教

わったが、音が鳴ったのは自分で考えたやり方でやった時だった。自分で出した音なのかと思ったら、周りの音だったということが幾度もとなくあった。

II. 牛乳パックや紙コップで笛を創ろう 音の原理を知ろう 遊び方を考える

物の中央に穴をあける作業がある。用具の正しい扱い方や使い方をどのように伝え、事故やけがをしない支援を考えながら作ってみよう。

1. タイトル：呼びかけ文

○笛を作ってみよう ○紙コップとストローで笛を作ろう～おうちにあるものだけで簡単に笛が作れるよ！みんなで作れば合奏できるよ！～
○カンタン！たのしく！コピーをつくろう！
○びっくりポン！！～自分の音を作ってみよう～
○ストロー+紙コップ=コピー ○ブーブー笛 ○ブーブー笛を作ってみよう！！ ○ストローで楽器ができちゃう！！ ○ストローと紙コップで作る笛 ○ストローで何ができるかな？ブーブー笛を作ろう！ ○ブーブー笛の作り方 ○みんなであそぼう♪ブーブー笛 ○世界に一つの気笛 ○とっても簡単！笛コップ♪オリジナルの笛を作ろう！ ○誰でも簡単にできちゃう！？

2. 感想

○ストロー1本で楽しい笛が出来るなんてすごい！驚きました。他にも先生が吹いていた音階の笛、牛乳パックの笛などもストローや牛乳パックのみで、こんなにもすごい物ができるんだ！とビックリしました。もっとこれからもいろんなものを作っていきたいです。家でもやってみたいと思います。

○ブーブー笛は吹くのが難しかったけれど、コピーはすごく簡単に吹けてうれしかったです。ななめにして、ストローの角度を変えてみると吹けない人も吹けるようになっていました。

- 最初にコッピの音を聞いた時、船の音みたいと思ったので船の遊びを取り入れ入れたら楽しそうだなと思った。こんなの簡単に遊び道具が作れるのは今の時代エコですごく環境に優しいなと思った。
- 作るのはすごく簡単。でも音を出すのが空気の多さなども関わってくるから大変。子どもに教える時は全然鳴らせない子もでてきてしまうと思うからサポートもしてあげないといけないなと思えた。
- ストローを1.5cmの山形に切ったけれど、切った部分が長すぎてうまく吹けなかった。息を吐く時に上手く息が入らなかった。
- 私は1回も鳴らすことができなかったで、今度また挑戦してみたいと思いました。作り方はとても簡単で子どもにも遊びやすいと思ったので私が実際に現場に出た時にも子どもたちと一緒に遊びたいと思います。
- 楽しかった。ブーブー笛は苦手だけどコッピはできた!!名前がコッピというのは驚き。名前がかわいいコッピー!!
- 出来た時、音になった時、とてもとてもうれしかったです。子どもの時ってこんな感じだったなあ～
- 自分の身近にあるもので簡単に笛が作れて面白いと思った。最初は音が鳴らなかったのが鳴るようになって、私たちの歳でもはまっちゃうので小さい子どもたちがやったらもっとはまって夢中になっちゃうんだろなあと思った。楽しかったです。
- 作って、鳴らして、とても面白かったです。子どもたちと一緒に作ってみたいと思いました。
- 使うものも簡単で作り方も簡単なので誰でも出来そうだなと思いました。子どもとやる時はハサミを使って切り抜くことに気をつけるか、もともと穴を開けていてあげた方がいいなと思いました。色々な音の高さにも挑戦したいなと思いました。
- 音が出る所を見つけるのが難しく、なかなか

か音が出なかったけど、一回出ると楽しくて何度も鳴らして遊びました。ストローの長さを変えて色々な音が出るのも作ってみたいです。

- たった1つの材料とたった1つの道具で音が鳴るおもちゃが作れるのは、本当に面白かったです。ストローだけでなく本来捨ててしまうような物でも作れたら環境にもよくて一石二鳥だと思いました。
- 子どもに分かりやすくイラストなどを用いて書くのが難しかったです。ストローでこんなにも楽しい遊びを開発した人はすごいと思いました。
- 細かい角度で鳴ったり・・コツをつかむと大きくてキレイな音が鳴った!色を付けたり、絵を描いたりして自分だけのコッピをつくってみると見せ合いっこしたら楽しそうだった。
- 音を出すことが最初できなくて、音が出るまでに少し時間がかかりました。音が出た時はすごくうれしくてずっとやっていました。作り方を書く時は、絵心がなくうまく書けませんでした。お手本でもらえた絵のように書けるようになりたいです!!毎回、いろいろなものができてとても楽しいです!!
- いつも使っていたストローが前回に続いてこんな風に遊ぶことが出来ることを知り驚きました。子どもたちに教えたいです。また、何気なく普段使っているもので、今回のストローのように遊べるものがあるかも知れないのでもっと気にしながら生活しようと思いました。
- 思ったよりも音が出る所を探すのが難しかったです。色々な長さもストローを使って演奏できるくらいたくさん音が出る笛を作りたいと思いました。
- 息を吹く時に音が出なくてとても大変だった。息を細く吹くのがポイントだと思う。紙コップに穴をあける時に子どもだととても難しいと思うので、切り方を工夫することが大

切だと思った。

- ストロー1本でこんなにもたくさんの遊び方があるのだなと思った。長さによって音が変わること、紙コップと組み合わせるだけでまた新たなおもちゃになることなど、子どもたちの嬉しさを引き出す工夫があるのだなと思いました。
- ブーブー笛を初めて作ってみました。小さい頃にも“ブーブー笛”は作ったことがなくて音が出たことにすごく嬉しく思いました。きっと小さい子が出来たらもっと嬉しいと思うし、私が指導者になったら楽しいと思ってもらえるように努力したいです。
- 短時間で2つの遊びが出来るので、とっても楽しく作れました。ストローを切る時に半分に切る時に半分に切るのは難しかったです。ブーブーとコピーが出来、よく作れて楽しく遊べるので良かったです。
- 吹くのがとても難しかった。吹けた時はとても嬉しかった!!作り方は絵が苦手だったけどうまく描けた。最初だったからなかなか全てが難しかったけど作り終えたことにとっても達成感があった。作り方もこれからどんどん上手く作れるように頑張りたい!子どもに伝えるような書き方はとても難しかった。
- こんなにも簡単に作れるなんてすごいと思った。手順も簡単で子どもたちと楽しく作れるし、私でも教えられると思った。音を変えるのが難しかったので、練習して曲がひけるようになりたい。
- 私が幼稚園の時、ブーブー笛を作ったことはありましたが、コピーを作るのは初めてでした。少し難しかったです。音がきれいに出て楽しかったです。1つの楽器になりました。
- 笛はなかなか鳴らなくて大変だったけど、その分鳴った時すごく嬉しかったです。
- 身近なもの、しかも使い終わったら捨ててしまうものが笛になるなんてびっくり。ほんの少し手を加えるだけで楽しいおもちゃになり

ました。

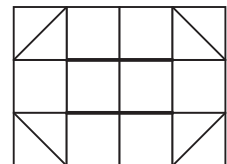
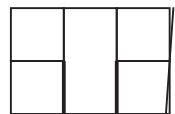
III. ペーパー凧をつくる

1. 呼びかけ文

- ペーパーたこをつくろう ○とっても簡単! 凧 材料はたった3つ! ○簡単で楽しい紙のできる凧 ○お化け見たい!?ゴミ0で作れる凧 ○簡単な材料でつくれる 出来上がるまでに約5分凧 ○ストローたこ ○ふわちゃん凧 ○紙とストロー2本?糸で凧をつくろう ○ストローを使って凧を作ろう!! ○願い凧~紙とストロー2本、糸で凧を作るよ♪~ ○カンタンダコ ○紙でつくるたこあげ ○紙とストローで凧を作ろう!
- ふわっとたこあげ、たこちゃん たこちゃん
- 凧を作ろう!!!!、願い凧をつくろう! ○凧を作って空にあげよう

2. 作り方

- 1) 材料 B4版のコピー用紙 細ストロー2本 木綿糸
- 2) 用具 はさみ セロハンテープ
- 3) 手順
 - ①紙を縦に2回、横に2回折る。広げると16マスができる。
 - ②縦長一番下4マスを切り離す。→この部分はしっぽとなる
 - ③縦長1回折にする。
輪側から3等分のオリセン
を中心線まで切り込みを入れる。
 - ④広げると12マスある
4つの角マスを直角三
角形に切る。
 - ⑤中央部の切込みは谷線
にする。
この部分にストローを縦骨・横骨としてつける。
縦骨に木綿糸を結びつける。
 - ⑥②で切った紙を4等分にして、つなぎ合わせ
しっぽにする。



凧が上がる原理：風の力を受けて、凧が上がる
凧が凧を押す力と糸が凧を引っ張る力
注) P9 参照

3. 感想

- 小さい頃に凧上げをした時、買ったもので大きくあげられなかったけれど、この凧は自分で好きなように絵を描ける（愛着も湧く）し、サイズが小さいので子どもでも上げやすそうだと思います。また、紙を無駄せず全部使い切るのも良いと思いました。
- 作り方は意外と簡単だったので家でも作ってみようと思った。これを子どもに説明するのは難しそうなので、しっかり準備をすることが必要だと思った。違う形のたこだと飛び方はどのように変わるのかなと思ったので試そうと思う。
- 色々な工程があって、子どもと作る時には、説明に工夫が必要だなと思いました。この凧は材料が身近にあるものだし、そんなに広くない場所でも飛ばすことができ、すぐ楽しめるので、すごくいいと思いました。手作り凧を飛ばした記憶はあるのですが、どんなかは忘れてしまいました。
- 私が小学生の時、ビニール袋でたこを作ったことはあったけれど（ビニールとプラスチックの棒）身近にある紙やストローでも出来るのだと思いました。紙を切るところが間違えるとバラバラになってしまうので、切るところはゆっくり確認してやったらいいなと思いました。絵を描くことでオリジナルの凧ができて飛ばすとおぼけみたいで、それをお散歩しているみたいで子どもも顔を描いたりしたら、ベットみたいな感じで愛着がわくのではないかなと思いました。みんなで一緒に飛ばす時は方向に気をつけて、絡まないように飛ばせたら良いと思いました。
- 今回はいつもよりも少し複雑で難しかったです。うまくとばせたとき、うれしかったです。
- 作り方は少し難しかったけど、タコを作れることに感動した。絵を描いてみたら、カラフルになってそれぞれの個性がでる作品になると思った。道具や材料も最小限の物で家でも作れて良いと思った。走るだけで飛ぶから普通のたこよりも子どもたちがやる分には良いと思った。
- 簡単に凧が作れてすごく楽しかったです。完成してから実際にやってみるとうまくあがらず、糸を結ぶ位置を少し変えてみたら揚がるようになりました。すごく盛り上がったので、子どもたちもやればすごく楽しいだろうなと思いました。
- 人生で初めて凧を作りました。凧を作るのはとても難しいのかと思いましたが、紙とストローで簡単にできちゃうことにビックリしました。よく飛ぶ凧が出来て良かったです。家で前の授業でやったブーブー笛を妹に作ってあげたらとても喜んでくれました。凧も一緒に作ろうと思いました。
- ゴミが出ないで凧がつくれるなんてびっくり。お正月の遊びのときにすぐ作れて子どもたちも大喜びするんだらうなって思った。私が子ども頃はビニールで凧を作ったので、紙で作ったのははじめてでした。
- 凧を実際に飛ばしてみると思ったより高く飛んでいき楽しかったです。凧に絵を描いてみなさんも世界で一つの自分らしい凧を作ってみたらいかがですか。
- ゴミが出ないというのが、エコ的でとてもいいなと思った。凧は久しぶりにやったので、昔を思い出してなつかしくなった。
- 凧を作るのは、私が幼稚園ぐらいの時に一緒に祖母と作ったので、とても懐かしかったです。ですが、凧はビニール袋で作ったものでした。凧の授業があると聞いたので、祖母に作り方を聞きました。母に「知っている凧ってある!？」と聞いたら「セミ凧かな」と言われました。
- 小さい頃は紙で作るとかかぶりものとかしか

作っていませんでしたが、紙に加わえストローなど加えるとたこあげも作ることができる。こんな簡単で自分だけのたこあげができて楽しかったです。

- 実際に作ると簡単でしたが、作り方をまとめて書くと結構多かったです。しかし、保育者が少し工夫をすれば子どもでも楽しく作れると思いました。そして、ゴミを出さずに全て使うことができるので、良いなと思いました。
- 切る向きなど気を付けないと失敗しようと思った。どのように工夫したらキレイに揚がるのか試すのが楽しかった。たこ糸を上につけたらよくあがった！
- 初めて凧をやりました。本物の凧もやったことないし、つくるのも初めてでした。こんなに材料が少なくても簡単に出来ることにビックリしました。子どもたちにも教えてあげたいです。

IV. ストロートンボ

1. 呼びかけ文

○たかーく飛ばそう！簡単竹トンボ ○「ああ幸せのトンボよ～ 簡単竹トンボ ○飛ばして楽しい！！ストロートンボ ○天までとどけ！！みんなで飛ばそうストロートンボ ○みんなで仲良く飛ばしちゃおう！！ストロートンボ!!! ○空へ羽ばたけ！ストロートンボ ○家でも作れるストローとんぼ

2. 作り方

- ①ちょっと厚めの紙を 2.5cm × 12cm の大きさに切る
- ②中央に穴あけパンチで1つ穴をあける
- ③ストローは紙の長さの1.2倍くらい長さのものを使う。片側に5mm切り込みを入れる
- ④切り込み部分から紙の穴にいれ、切り込みを広げる
- ⑤紙とストローを垂直にし、セロハンテープで固定する
用 具：はさみ、穴あけパンチの正しい扱い

方や使い方を知る

注意点：厚紙の4つの角を危なくないように丸く切る

3. 遊び方

- ①まず机の上で回してみよう！ ⇒ 羽根には角度なし
- ②上に飛ばす ⇒ 時計回り、反時計回りを考慮し、羽根の角度をつける
- ③飛ばしている間に拍手する → 友だちとキャッチしあう
- ④羽根が下。逆向きに飛ばす → 飛ばす角度でプーメランのように戻ってくる
- ⑤一重円になり右に飛ばす。左から飛んでくるストロートンボをキャッチする

4. 感想

- 私が作った2つの竹トンボは羽根の大きさが大きいほど角度を急にすると良く飛ぶということに気付かせてくれた。“送り出す”ように飛ばすと羽根が手に当たらずに上手く飛んでくれる。飛ばそうという気持ちが強く力んでしまうと逆に回転が遅く、落下してしまう。
- 竹トンボを作るには材料などを集めるのが大変だと思ったけど、今回作った竹トンボは画用紙やストローという身の周りにある物ですぐ作ることができ、また子どもにとっても材料がやわらかく扱いやすい物だと思った。竹トンボを飛ばすためには羽根の角度やバランスが大切なので、頭を使って考えながら作業することができるので、とてもいい教材になると思った。
- たけとんぼなんて小学生の頃にやったのが最後だったし、そんなに楽しいものだった思い出がなかったから、最初は少しバカにしていたけど授業を受けているうちにだんだん楽しくなってきたし、飛ばし方次第でいろんな楽しみ方があって新たな発見がありました。この楽しさを子どもたちにも伝えたいとあげたいと思いました。

- 竹トンボを作ったりしたことがなかったの
で、新しい発見がたくさんあった。長さや大
きさ、ちょっとした手間や工夫によって竹ト
ンボの飛び方にちがいが出ること驚いた。
これからの授業でも色々な所に着目し、自分
でも発見したいと思った。
- 初めてストロートンボを作って、日常にある
ものでこんなに楽しく遊べるものが作れて楽
しかった！！みんなで遊ぶほど盛り上げるから
子どもたちと一緒に作って遊びたいと思っ
た。

V. 言葉かけによる指導案

以上が授業で実施してきた学生の「呼びかけ文・作り方・遊び方・感想」である。ここで作り方が分かって子どもたちに伝えるかが肝心な点である。例えば、「紙を半分にして」と言っても、どう半分にするかは子どもたちによって様々である。また、円盤の中心はどこですかと尋ねるといろいろな答えが戻ってくる。5ミリ程度が理解できない。など言葉をどう使うかが問われることになる。例えばアイロンということばで紙を折り、きちんと平たくすることを伝えようとしたらどうだろう。言葉だけが伝える手段ではないが、感情や具体的に見せることなどで対応はできるかもしれないが、言葉見出しを付けて作業を確立していくことができるのではないかと考える。

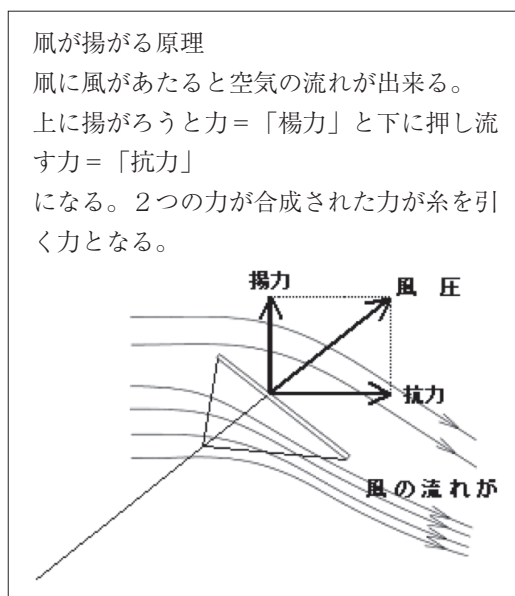
指導案というと、手順を示した時間的整序の項目と内容さらに留意点書かれているのが普通だが、実際に子どもたちにどう伝えるのかを記載する指導案を作成する必要があると考えた。このことを通じて子どもたちどう向かい合うのか、どのように伝えることが理解しやすいのか、イメージがわく言葉を日ごろからトレーニングすることが重要であると考えた。

全体像は下表を見てもらうと理解できると考える。挨拶では「おはようございます。」と声をかけて、その子どもの反応を予想して対応することが求められる。また、誰にあいさつをし

ているかも大事で、「星組のみなさん」と声をかけ、「元気にあいさつしましょう」と言葉を重ねて、挨拶するととても元気な挨拶が戻ってくる。「素晴らしい挨拶ですね」と反応をする。ワンハーフのやりとりで、投げかけて、反応があったらその反応に対して言葉を添えることである。そのワンハーフのやりとりを指導案の中に記載するのである。

挨拶が終われば今日は何をしたいのかを伝える順番になる。「これをやるよ」という興味付けでは興味がわいてこない。問いかけ法やクイズ形式で子どもたちの声を拾う。「そうだね」とうなずいて子どもたちの声を拾い上げてみんなのものにしていく。動機づけが済むと全体像が理解できる問いかけで、やりとりを予想しながら言葉をかけていく指導案を作成する必要があると考える。

いくつかの事例を挙げて、このことのすばらしさを伝えたい。と思う。



添削指導によるホスピタリティのある指導方法を研究する

課題：評価と反省にみる観点をもとに説明のことば・ことばかけを中心に声の調子、動作と表情を添削してみよう

活動財	時間	手順・項目	説明のことば・言葉かけ	声の調子	動作と表情	隊形と立ち位置	評価と反省 ホスピタリティのある指導の観点から	
十五夜さんの餅つき		隊形作り	では皆さん。バラバラでよいですから。なるべく中のほうに集まりましょう。 2人組になって、その人と握手をしよう。 気持ち悪いですねえー。	元気よくはきはきと、抑揚をつけて 少々ゆっくりと	笑顔で 握手をするポーズ 胸をこすりつつ、冗談ばく	…………… …………… …………… ○	2人組にして気持ち悪いですねという冗談はよくない。 はじめにしなけれはいけないことは、全体像の把握である。リーダーと参加者の代表者によるデモンストラーションをすることがよい。 具体的には「お餅つきをします。2人で見事につきあげますので、みていてください。おもちをつきの上手そうな〇〇さんに手伝っていたみましょう。〇〇さんに激励の拍手を。〇〇さん、おもちをべったんべったんと一定のリズムでついでくださいね。お願いします」と見本を見せること。お餅のつき手は、ただ上下に拍手をするだけの動作だから、すぐに誰でもできるので、モデルとしても大丈夫である。 このように2人が役割を全うすることでお持ちは見事につきあがります。	
		2人組作り	さて、これからこの2人でお餅をついてみましょう。もちつきというからには『もちさん』と『つきさん』がいるわけですね。2人でよく相談して、もちさんとつきさんを決めましょう。はいどうぞ。	もちさんとつきさんにアクセントを置いて	もちの時には水平に丸く、つきの時には垂直に手を動かす。 どうぞで両手のひらを上にする			
		役割分担		(間) 大きく念を押すように問い掛ける	手を上げる			
		役割確認	決まりましたか それではもちさんになった方は？ つきさんになった方は そうですか	少々ゆっくりと	納得した顔で、腕組みをして首を上下に振る			

言葉かけを重視した指導案の作成

レク財名 (遊び名)	鳴いた鳴いた	対象 (主体者)	年少・年中・年長 小学1年生・低学年・高学年	場所	保育室
---------------	--------	-------------	---------------------------	----	-----

言葉による指導案

時間	項目	具体的な言葉かけ	主体者の反応(予測)	備考
導入 挨拶	動機づけ	みなさんこんにちは 今日元気挨拶できた	元気にあいさつする	知らない 興味が出る
		えらいね!		
		今から「鳴いた鳴いた」ゲームをするよ。知っているかな? 鳴き声を当てる遊びだよ		
		リズムに合わせて当ててもらうから みんな先生の	先生の方を見る	
全体 イメージ		ことをよく見てね		
展開(図示 隊形づくり)		先生の方を向いたかな? おへそが先生の方を	座りなおす	話を聞く 返事する「いいよ」 「なにがないた」 「鳴いた鳴いた」(とリズムよく) 「なにがないた」 もっと大きな声出せるね? 「鳴いた鳴いた」 大きな声でたね 「カラスが鳴いた」
		向くように座ったかな		
		先生が「鳴いた鳴いた」言うから みんなは		
		「なにがないた」って言ってね。準備は良いかな		
		「鳴いた鳴いた」(とリズムよく)		
		もっと大きな声出せるね? 「鳴いた鳴いた」		
大きな声でたね 「カラスが鳴いた」	カー、カーカー			
整理 まとめ 結果 評価 (個別支援)				

モォーモォー笛

準備するもの

- 牛乳パック (ひらいたパック1枚分)
- ハサミ
- 定規

つくり方

1. Lの字にパックを切る!
2. 折る
3. 折り返す

完成!!

おえひがた

原々は大きこのふえをつけて、様々な動物の鳴き声をやってみよう!

原稿紙のタイトル: 学号番号: 氏名: 月日:

『名人になろう!』

用意するもの(各自): ハサミ(カッター) 色紙(色鉛筆・フルートペン(ポスター) 接着剤(水和ノリ・ボンド・瞬間接着剤・接着テープ)

道具の使い方: フルートを便利にするには、手前からカッターを押し、後ろから押し、通さない。

手順:

- ① 紙を大きめに切る。この材料は、紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。
- ② 紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。
- ③ ストロウの両端を折る。紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。
- ④ ストロウの両端を折る。紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。
- ⑤ ストロウの両端を折る。紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。

観察の原由 (科学への目)	観察のポイント	工夫・応用への視点
ストロウの両端から吹く。紙の厚さを調節する。	ストロウの長さで音程が変わる。紙の厚さを調節する。	紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。

感想: ストロウの両端を折る。紙の厚さを調節する。紙の厚さを調節する。

紙のフエ

用意するもの: スロウ、はさみ

作り方:

- ① スロウの両端を折る。
- ② 紙の厚さを調節する。
- ③ スロウの両端を折る。

原理: フューアールを振動してフューアール。

感想: フューアールを振動してフューアール。

紙パック笛

材料: 牛乳パックの紙片(1枚) ・ はさみ

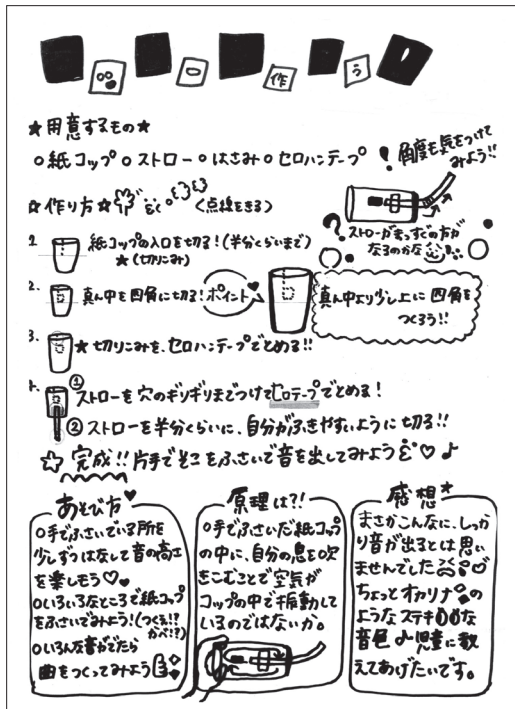
作り方:

- ① 牛乳パックをL字に切る。
- ② 紙の厚さを調節する。
- ③ スロウの両端を折る。
- ④ 最後にここを折り返して完成!!

遊び方のポイント:

- ・ 紙の厚さを調節する。
- ・ スロウの両端を折る。
- ・ 紙の厚さを調節する。

角度を変えたりすると出るよ! Never give up!



この方法により、実際に子どもと接するとき
 にどう言葉をかけるかを学習することができる
 と考えた。学生時代に言葉をどう使うかを学習
 することが大切だと考える。

参考文献

- 月刊レクリエーション 1985年2月号
 「集会レク指導の記録と分析の考え方」
 宇田川 光雄
 (公益財団法人)日本レクリエーション協会
 纂編
- リーダーのゲーム指導法 1988年4月10日
 宇田川光雄(有)遊戯社
- お正月の遊びアイデア 1992年12月
 内山 則子 明治図書出版
 生活科実技シリーズ3
- コミュニケーション・ワーク
 (公益財団法人)日本レクリエーション協会
 刊行

1996年10月